

松島淨先生のご退職に寄せて

——もう一人の「マツキヨ」から感謝をこめて

松 井 清

私の本学での生活は、その最初の日の第一歩から、年齢やキャリアの点ですぐ上の先輩教員ということもあって、松島先生の数々のアドヴァイスを頂きながらはじまった。もう三〇数年前のことになるが、それから今日まで、研究室の位置をはじめ、いつもお隣の松島先生に本当に長らくお世話になったものである。

思い起こしてみると、社会学科の教員公募に応募し、さいわいにも書類審査・論文審査などが終わり口頭試問の面接に臨んだとき、故竹内真一先生、橋本茂先生とともに松島先生が面接官の一人であったから、本学に採用される際にもご援助いただいたこととなる。私の業績を論評されときの穏やかな話し振りが今でも記憶に残っている。ほどなく知ることになるわけだが、この記憶は、他人の良い面だけを取り上げて悪い面を探すことをしない、あの人柄というか人徳を知って増幅されているのかもしれない。

最初の数年間は「社会学原論」とともに当時の「一般教養科目としての社会学」を昼夜計二科目程度担当させられた。いわゆる「般教」としての社会学の提供にカリキュラム上、全学的責任をもっていたのが松島先生であったから、何をどう教えたら良いのか、この面でも松島先生の影響を受けたようである。実際、先生の授業を廊下

から盗み見たこともあったが、黒板には、「上部構造」、「イデオロギー」、「意識」といった文字が勢いのよい筆致で書かれ、かなり難しそうな講義と拝見し、社会学の守備範囲をできるだけ網羅的に紹介するのが「般教の社会学」ではないことも知らされたようである。

二部（夜間部）の新生生キャンプのときだったと思う。講師の講演が終り、当時の一般教育部の先生も参加してグループ・ディスカッションとなった。仔細はよく覚えていないが、何人かの新生生が「本学の一般教養科目の多くは高校の授業の繰り返しで面白くない」と発言し、新参者の私も、それに同調するかのような発言をしたらしい。松島先生が毅然として反論し、横目で私を睨みながら、大学における一般教養科目の目的なり意義について熱弁されたことを思い出す。一年生などと顔を合わせる機会の多い松島先生ならではの意見で、同じ問題やテーマを大学生として別の角度からもう一度考え直すことの重要性について語っていたはずである。

新生生キャンプと言えば、社会学科は以前に廃止してしまったが、一時期、その運営や企画は松島先生が中心になって実施されていたはずである。私が赴任して最初の新生生キャンプ（一部）は箱根強羅の地塩園という施設で開催された。一日の行事が終わり、教員が別室に退いてのんびりと歓談しているのとは対照的に、松島先生は、酒気を帯びて騒々しい一部の新生生の世話係で各部屋を飛び回り一人奮戦されていた。翌朝、昨晚の新生生の狼藉に他の教員が憮然としているのに対して、人一倍疲れ果てたはずの松島先生は「若いから仕方がないですよ」といった調子で 学生を責めることもない。何事につけ寛大で、いつも学生の気持を察して主張するのが松島先生なのである。

先生の専門分野は文学・文芸・言語・芸術などを中心とした文化社会学である。長いこと取り組んできた沖縄

文学から若い世代の現代歌人やポップアーティストまで、その守備範囲は広範にわたる。方法的には吉本隆明から影響を強く受けているようである。最近作の『詩と文学の社会学』に収録されている一〇篇以上の論文が物語っているように、松島先生は自分の方法と分析枠組の中で、あくまで自分の心で感じたものを自分の言葉で語ろうとされている。他の研究者の見解や解釈に拘泥することがない。研究分野が違うとはいえ、文献的な参照や引用文が多く、自分の見解が少ない私などは反省させられる点である。

松島先生は北九州市の出身である。門司、小倉、若松、八幡などでは土地柄も人柄も少なからず異なるのだから、北九州といえ、少し古臭いが昔読んだ火野葦平の『花と龍』が思い出され、男も女も豪胆で気性が激しく、荒々しいが人情深い、といった主人公の姿が思い浮かぶ。しかし、松島先生は、このような類型には該当しないようであり、穏やかで声を荒げるようなこともなく、どちらかと言えば優男でおしゃれである。ただ、この点に気がついたのはかなり後になってであるが、先生は静かではあっても、自分の考え方ははっきりと主張し、豪快ではなくても、ハラが据わり、度胸がよく、ものに動じない。意外と言っては失礼だが、やはり北九州男児の強い方なのである。

お名前が浄であり、なかにはジョーさんとかジョー先生と気軽に呼ぶ向きもあるが、言うまでもなく、マツシマキヨシ先生である。つまり、社会学科には三〇年以上にわたって二人の「マツキヨ」がいたわけである。離れゆくマツキヨに、残されたもう一人のマツキヨは万感の思いと感謝の気持ちを申し伝えたい。